

## 2019年度第3回「知事を囲む産業懇話会」

開催日：2020年2月10日（月）

会場：中島屋グランドホテル

参加者：＜役職は2月10日時点（敬称略）＞  
〔静岡県〕

川勝知事、吉林副知事

篠原知事戦略監、佐藤政策推進担当部長

鈴木経営管理部長、天野経済産業部長

松下企業局長

〔経営者協会〕

中西会長、中田副会長、秋山専務理事

〔参加経営者〕

等 健次（大興製紙㈱ 代表取締役会長）

佐野 寛（㈱タカキュー 代表取締役）

山崎伊佐子（フジ物産㈱ 代表取締役）

榎本 裕二（㈱ミサワホーム静岡 代表取締役社長）

鈴木雅太郎（㈱マルマ 代表取締役社長）

野ヶ山哲夫（㈱ヤマト製作所 代表取締役）

### 【ご発言内容要約】

野ヶ山 哲夫（㈱ヤマト製作所 浜松市）

#### ①事業概要 二輪車用エアクリナー・ オイルクリナー製造

#### ②現状と課題

弊社は1966年に創立、従業員は派遣を含めて90名の中小企業です。浜松市浜北区に本社を含めて3工場と海外事業所としてタイに子会社を持っています。事業内容は小型エンジン用エアクリナー、オイルクリナー、フューエルフィルターの設計及び製造です。1次の部品メーカーとして受注生産を行い、二輪車のエアクリナーが主力製品です。主要納品先は、二輪車を生産しているヤマハ発動機様、川崎重工工業様、本田技研工業様などです。

弊社を取り巻く事業環境です。業績に大きく影響する国内の二輪車生産台数は、2009年以降は1981年の730万台の10分の1以下で推移し、今後も横ばいが見込まれています。二輪車の生産は、圧倒的に海外生産になっており、弊社としては大変厳しい状況にあり最大の問題です。全社一丸で経費節減に取り組み、2019年に少し上向きになっていますが、本年が正念場であると、全社で業績を回復させるという信念で取り組んでいるところです。

弊社の2020年の活動の方針は、目標・スローガン「多品種少量生産かかってこい」です。新規の引き合いはあっても少量生産が大変多くなっていることから、昨年までにロボットや自動化の設備を全て見直しました。製造業ならではの「原価低減」、「日常業務改善」、「CSR方針策定」、「品質改良目標」に

取り組んでいます。今日は「新規事業・新規顧客開拓」についてお話します。まだ結果が出ていませんが、具体例を紹介します。まず、「有機溶剤除去フィルター」です。これは工場の困り事から発案された商品で、試作品までは完成しました。「くさい臭いをスイッチ一発で消す」、「小型」、「低価格」、「操作が簡単」ということで非常に優れた物だと自画自賛していましたが、消防法を満たさないという問題が発生しました。有機溶剤が引火しないような仕様になると、「操作が簡単」、「低価格」を全く達成できません。この商品で引火の可能性はゼロに近いと思いますが、お客様の安全を考えて製品化を断念しました。

もう一つ、「芝生内雑草のピンポイント除草 商品名『芝からさん』スギナ根絶の園芸用商品」です。厄介な芝生の雑草取りを、この商品で簡単に雑草を根絶してしまうという商品です。しかし、まさかと思いましたが、法律に抵触する問題が発生しました。ほんの少量の除草剤が入っているのですが、「農薬取締法」の指定業者にならないとできないということで、今は、この問題をどうしようかと検討中です。

弊社の新規事業における問題点は、製造業らしくPDCAサイクルを回しているのですが、プランの段階で法規制や販売方法まで綿密に検討する必要があるのに、実施してみないと問題が見えてこないこともあり、弊社のような中小企業のジレンマでもあるということです。ただ、いいこともありました。試行錯誤のなかで、AOI（アグリオープンイノベーション機構）の会員になり細かいことを相談出来るようになり、また、セミナーをきっかけにSIBA（静岡県国際経済振興会）から海外のいろいろな情報を入手できるようになりました。また以前より、海外事業で静岡銀行に大変お世話になっています。タイの子会社の設立から現在に至るまで、現地駐在の人にも本当に親身に支援してもらっています。新規事業や海外展開に関しては、静岡では本当にリアルな情報を伝えてくれる存在が身近にいてくれるので、更にサポートを厚くしていただければと思います。

